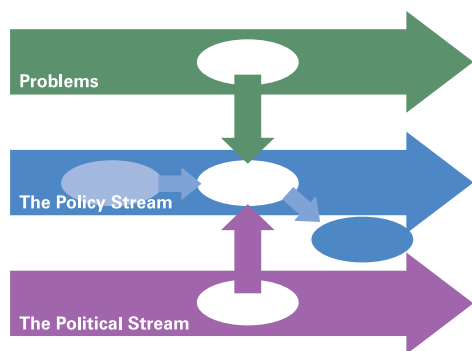


# 可能性としての 公立大学政策

なぜ平成期に公立大学は急増したのか

■ 中田 晃 〔著〕



特定非営利活動法人 学校経営研究会

## 公立大学を設置する地方自治体政策に 光を当てる試み

一般社団法人 公立大学協会

会長 鬼頭 宏（静岡県立大学長／歴史人口学）

公立大学は、平成期において 39 大学から 93 大学へと、その数を一気に増加させた。本書は、公立大学の設置を決断した地方自治体の政策過程を明らかにする試みである。

著者は平成期の設置政策を 2 つの時期で 4 分類する。平成前期には、地方分権の後押しを得て、公立大学設置の抑制が解かれ、集中的な設置が行われた。しかし、中期以降になると新規の設置はわずかとなり、「短期大学からの昇格」「大学統合」「私立大学の公立化」という 3 つの政策に分化する。

これらの政策過程は、18 歳人口の急減、バブル経済の崩壊をはじめとする、平成期の社会構造の変化への反応として描きだされる。その一つが、超高齢社会への対応として行われた公立看護系大学の集中的な設置である。これは、戦争末期に銃後の医師養成を目的に多くの公立医学専門学校が設立されたこと（戦後に医科大学・医学部となる）を思い起こさせる。公立大学は、国家的な難局を引き受けて、その数を増していったのである。さらにそれは、18 世紀末の四半世紀（1776～1800 年）に天明大飢饉による人口減少のさなか、厳しい幕藩財政を押し立てて藩校の集中的設置（86 校）が行われたことにも通じる。

我々は、このコロナ禍の下で、公立大学が今後何を引き受けていくのかを問わなければならない。「政策の窓モデル」を用いた分析は、自治体政策の組織的側面とともに、政策に関わった人々の人間的な姿を浮き彫りにする。それは、今後の公立大学政策を推し進める我々関係者に、未来をひらく力をもたらしてくれるであろう。

## 目次

### 序章 平成期の急増を紐解くその前に

- 第 1 節 “なぜ平成期に公立大学が急増したのか？”
- 第 2 節 平成期の公立大学政策
- 第 3 節 「常識」を見直す 3 つの分析視角
- 第 4 節 「政策の窓モデル」と「政策起業家」
- 第 5 節 一様ではない政策過程（4 つの政策区分）
- 第 6 節 ミクロからマクロへ

## 第 I 部 平成前期の集中的設置

### 第 1 章 信念がひらいた公立大学設置

- 第 1 節 地域に大学が必要という信念 — 釧路公立大学
- 第 2 節 大学教育による看護職養成 — 兵庫県立看護大学
- 第 3 節 総合発展計画に示された信念 — 岩手県立大学

### 第 2 章 共通する政策環境

- 第 1 節 問題の流れ：地域からの人材流出
- 第 2 節 政策の流れ：国土計画・産業政策・福祉政策
- 第 3 節 政治の流れ：バブル崩壊と地方分権

### 第 3 章 「政策の窓モデル」が示すメカニズム

- 第 1 節 個体レベルの分析：多様な政策決定過程を描く
  - 第 2 節 総体レベルの分析：鮮明な政策の窓の開放
  - 第 3 節 テイクノート：多様な政策波及／国・地方関係
- 可能性を展望する 1 地方自治の可能性

## 第 II 部 平成中期以降の設置政策の多様化

### 第 4 章 短期大学からの転換

- 第 1 節 分析課題：財源確保の困難化と教育の高度化要請
  - 第 2 節 2 段階で開いた政策の窓 — 新見公立大学
  - 第 3 節 「四大化請負人」の招聘 — 福山市立大学
  - 第 4 節 総体レベルの分析：鮮明でない窓の開放
  - 第 5 節 テイクノート：経路依存／長期的過程
- 可能性を展望する 2 政策コミュニティの可能性

### 第 5 章 大学統合

- 第 1 節 分析課題：公立大学法人制度と大学統合
  - 第 2 節 突然の方針変更 — 東京都による大学統合
  - 第 3 節 条件の交換 — 大阪府による大学統合
  - 第 4 節 総体レベルの分析：強い政治の窓
  - 第 5 節 テイクノート：自治体のイニシアチブ／行政コスト
- 可能性を展望する 3 設置自治体政策の可能性

### 第 6 章 学校法人からの設置者変更

- 第 1 節 分析課題：公設民営大学の困難と公立化の受容
  - 第 2 節 政策エリートがひらいた公立化 — 高知工科大学
  - 第 3 節 12 市町村の説得 — 名桜大学
  - 第 4 節 突き付けられた撤退オプション — 山口東京理科大学
  - 第 5 節 総体レベルの分析：強い問題の窓
  - 第 6 節 テイクノート：政治的受容のパターン／政策波及の速度
- 可能性を展望する 4 衰退過程に示される可能性

## 終章 可能性としての公立大学政策

- 第 1 節 分析の課題と推論の方向性
- 第 2 節 メカニズムのパターンの類型化（動態的分析に向けて）
- 第 3 節 3 つの分析視角の妥当性（帰納的分析に向けて）
- 第 4 節 結論

著者 = 中田 晃 NAKATA Akira

劇団制作部、編集デザイン業を経て、2002 年公立大学協会入職

現在、一般社団法人公立大学協会 常務理事・事務局長

博士(学術)放送大学

発行：特定非営利活動法人学校経営研究会

ご注文は弊社 Web からお願いします。

<https://www.supportyou.jp/keiriken/form/4/>

TEL：03-3239-7903 FAX：03-3239-7904